

当院で診断された子宮体癌患者の初回治療終了後の外来経過観察期間の検討

1. 研究の対象

1983年1月～2013年12月の間で、当院で子宮体癌と診断され手術療法を施行された患者さんを対象とした研究です。

2. 研究目的・方法

子宮体癌は、術後の病理診断によって再発リスク（低、中、高リスク）が決まります。現在の標準治療では、再発リスクが中等度以上の場合には、術後化学療法が必要となります。現在、再発リスクに関わらず当院では術後1～2年は3ヶ月ごと、以降は半年ごとのスケジュールで外来経過観察を行っており、最低でも治療後5年の経過観察を行っています。早期子宮体癌で再発低リスクと判定された症例での再発はほとんどありませんが、再発リスクが高いと判定された症例では、初回治療後の再発期間が短く、予後不良です。本研究の目的は、当院で治療を行った子宮体癌患者の臨床経過について、病理学的な検索も含めて後方視的に検討を行い、子宮体癌患者の術後または術後化学療法後の、再発リスクごとの適切なフォローアップ方法について明らかにすることです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、手術記録、カルテ番号 等

試料：病理検体、採血検体

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校 産科婦人科学講座

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2

電話：04-2995-1511（内線2363）

FAX：04-2996-5213

研究責任者：防衛医科大学校 産科婦人科 講師 宮本守員